

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470500372		
法人名	(有)村伝		
事業所名	グループホーム村伝	ユニット名	グループホーム
所在地	宮城県気仙沼市八日町2-3-5		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 22 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2 年 11 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム村伝は、市役所から100mほど離れた中心部にあり近隣には商店や病院、公園など恵まれた環境にあります。それらの地域財を活かしながら、いままでの暮らしと変わらない生活を目指しております。利用者様の通院は、本人希望で家族、親戚が多いためリハビリに力を入れ、生活の中で自分の出来る事は、自分で行い、自信、喜びに繋げ、身体機能改善出来るように支援させて頂いています。コロナ渦の中でも「距離は取りながらも心を寄せて」を実践しております。認知症ケアも早めに主治医に相談をさせて頂き本人の行動、気持ちを大切にしながら支援しています。入居申し込み相談時には、介護者の悩みも多く聞かれ可能な限り対応させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の5項目を基に、村伝理念の「あんべいい」を掲げ、気仙沼弁が心地良い響きと好評である。ホーム近隣には、市役所や病院、商店街がある。村伝がこの地で旅館を営んでいた事もあったことから、現在も、八日町商店街振興組合に加入している。玄関を入ると、交流スペースがあり、家族や地域住民が、気軽に立ち寄れる場所になっている。入居者は、近隣の神社の祭りに、氏子として参加したり、散歩や買い物に行き地域住民と交流をしている。地域ボランティアの来訪があったり、「村伝エステの日」には、美顔マッサージやパック、マニキュアを行ない、綺麗になったと喜び、笑いの絶えないホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム村伝

グループホーム村伝

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、ホーム理念を管理者も含め唱和し周知できています。施設内には、4か所理念が掲示されており、支援に息が止まった時、余裕がなくなると理念を思い出しリセットしている職員もおります。業務中も意識付けができています。	気仙沼弁の「あんべいい」を村伝理念とした。日々の生活の中で、気分や体調が良い時に使う言葉である。職員、入居者の意見を聞き、話し合いで決定した。基本理念と共に掲示し、毎朝、唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の振興組合に加盟しており、地域の情報共有ができています。馴染みの商店の前を散歩すると気軽に声を掛け合い交流しています。コロナ渦で現在は近隣のイベントがなくなっています再開の際には、案内を頂く予定です。	振興組合に加盟し、回覧板、民生委員等から情報を得ている。地域の語り部、フットマツサーズのボランティアが来訪した。入居者が、九条小学校の子供達に、お茶の淹れ方を教えるなど交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域方々との交流が出来ない状況ですが、地域の方の入居申し込みの際には、理解に苦慮している際には、認知症で混乱からくる等の、お話しをしながら支援方法を助言する機会が増えています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を定期的に行う事で、ホームの考え、認知症介護への取り組みの理解が深まっています。活動報告から、行政より日常生活、行事などを継続する大切さを助言頂いています。町内の方より、災害時のアドバイスを頂く事が多いです。	市職員、地域包括職員、民生委員、地域住民、家族、入居者が参加し活動報告や意見交換を開催している。家族から、災害時の避難経路について、安全面を重視した、郵便局通りを通る提案があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム内で、入居者様のパーキンソン病症状から移動方法について相談させて頂くと情報提供頂き気仙沼保健事務所PTが、来所され介護技術を学ぶことが出来、協力体制が継続出来ている。	復興住宅入居者の高齢化に伴い、入居空き室状況の問い合わせがある。地域包括センターから、市役所庁舎で行なわれた、認知症予防パネル展の誘いがあり、入居者と一緒に見学に行った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月毎に開催を続け、毎月のカンファレンスでも全職員にも具体的な事例で、虐待の背景、チームケアで防げる事を話合っています。自分のホームでは？と、考える事として実践しています。意識付けが習慣になるよう委員を中心に取り組んでいます。	身体拘束委員会を年4回、定期開催している。毎月の勉強会では、全職員でセンサーマットの活用等、具体的な事例で話し合い、適切なケアの実践に取り組んでいる。日中、玄関施錠はしていないが、夜間は、防犯上から施錠している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修が予定されていたが、コロナ渦で中止になりインターネット等で高齢者虐待防止法を、管理者が学ぶ機会を作っています。必要な事は、申し送り、カンファレンス等で全職員に、情報提供しています。	勉強会では、禁止対象となるケアやスピーチロック等を職員で話し合い、虐待のないケアに努めている。職員の悩みについて、ライフラインは管理者が、ケアはリーダーが相談役になり、解決できる体制にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者さんの成年後見人制度を利用されている方はいませんが行政主催の研修がありましたら参加したいと思います。今後も知識を高めて行きたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、家族、本人の環境が変わり入居準備など多忙になりがちです。無理のない日程を計画して契約内容を説明しております。入居されてからも面会時などで契約内容についての質問も受けられる環境を作っております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	通院、面会時にご家族様に玄関先で受診に必要な生活の様子を話すことが多いので、その機会に家族からの要望を伺い、ホームでの取り組みに活かしております。遠慮される家族心情にも理解しながら対応しています。	家族には、気軽に声掛けし、意見や要望を聞き出せる雰囲気を作るようにしている。歩行練習をして欲しいとの要望に、下膳コーナーを作り、入居者が自ら動くことをリハビリに取り入れた支援をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は申し送り、挨拶の場で職員から提案が聞かれます。ホーム内の設備、備品などすべてに職員の意見を取り入れやすく心懸けています。創造力を養い、「自分たちで作る職場環境」を実践しています。	職員から玄関エントランスの、「車止めが危険なので」の要望があり、撤去した事で外観も良くなり安全確保ができた。職員の急用発生時に、柔軟にシフト調整し応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、他事業所との連携を積極的に図っておられ月8回は、管理者と意見交換が出来ており前向きに相談が出来ています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スキルアップのための情報提供などをして下さりシフト制の勤務体系の中でも研修参加をバックアップして下さる姿勢があり継続出来ています。認知症介護を理解して下さっています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の県研修の案内が、あれば情報提供して下さりサービス向上に繋がると、理解して下さっております。先日は防護服の研修、コロナ感染の取り組み事例の研修に、行かせて頂きました。ZOOM研修も参加しています。	グループホーム協議会より情報を得て、リモート環境を整備し、コロナ感染予防研修会に参加した。法人内の施設間で、職員の交換研修をする事で、介護技術の気づきに繋がりがり、個々のスキルアップをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を検討している段階から早めにホーム見学をして頂き、その後は自宅に訪問させて頂き関係を構築しながらどんな生活を送りたいのか？心配な事などは、自宅で伺っております。ホームでの理念なども分かりやすくお話しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こんな事を言うと、不利になるかも・・と家族様は、遠慮される事がよく見られます。共に生活させて頂く事をお伝えして、些細な事も大切な要望として聞かせて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初期では、今までの生活習慣に合わせて本人のペースを尊重しております。笑顔接し入居者様が話しやすい環境を第一にしています。職員全員が情報共有しやすいように特記ノートで、発した言葉、好みの物など記入しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の自尊心に配慮しながら、介護依存にならないように、カンファレンス、理念などで検討しております。本人の意向聞き、選択する事を、心がけ利用者様からお茶を入れて頂いたり、季節の行事など職員が教えて頂いております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎朝の申し送りの場で、管理者が家族の意向などを職員に伝え、職員の支援の振り返りを、行っています。結果、家族の気持ちを考え利用者様にどう接して良いかを、管理者と考え支援方法を確認、関係作りを築いています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所に馴染みの店がある利用者様がおられ買い物に行ったり、店に立ち寄る許可も頂き関係を継続出来ていましたがコロナ渦で、中止しています。友人宅にホームで送り迎えを行い過ごす事も大切にしていました。	コロナ禍のため、事前予約で体調等を確認し、面会できるよう支援している。近所への散歩や衣料品店での買い物、職員が同行しての友人宅への訪問をしている。継続的な交流ができるよう働きかけ支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関係性を考慮しながら円滑に事業所内で交流が出来るように声掛け、ドライブの誘う順番、座席の配慮をしています。喜怒哀楽を受け入れられる関係も出来ていません。時折BPSDでのトラブルもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に退所した方が、1年前におり今でも心温まるお手紙を頂いたりこちらからも訪問させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリング・評価の際の聞き取りでは、個別でお話を伺う。希望や要望が聞かれ直ぐ実践出来る事は、取り入れている。ペン習字を習いたい相談がありユーキャンのカタログを取り入れ検討中な方もおられる。要望は記録している。	日常に思いや意見を聞き、職員で共有している。「裁縫がしたい」に、雑巾を縫ってもらい来客にあげている。美容師だった方が、入居者の髪をとかしたり、入居者のやりがいを引き出す支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生まれからの生活、社会との関わり、介護サービス利用内容など伺い、ホームの役割、活動に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤、早番さんが中心に生活の様子、身体能力の把握を行い共有させて頂いている。最近では、自室PTトイレ以外でも洋式トイレで排泄出来る利用者があり、把握出来ています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	村伝理念、八日町理念が浸透しているので、全員が毎日暮らしの中でささやかでも改善を積み重ねて行くように工夫、行動しています。結果歩行器から杖歩行可能になった利用者が2人います。	入居者や家族の意向と医師の指示を参考に、6ヵ月毎、計画書の見直しをしている。水分制限がある方には、湯飲みや汁椀を小さくし、お代り可能にしたり氷を含んでもらう等計画書に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に管理者が必要書類は確認しています。特記事項、申し送りカード2種類を利用して体調変化、BPSDの原因などに活用しています。ヒヤリハットも先回りの気づきとして活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員には、変化を恐れず、既存に捉われない何が必要か、誰が困っているか等を考えて行動できるよう考える指導をしています。昼食の下膳は介助した方が、早く合理的ですが、本人の力を発揮出来るよう見守りに変えて取り組みもその一例です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで過ごす毎日だけでは、生活の楽しみ、生きる力が乏しくなります。地域資源が近所にあり恵まれている環境なので感染対策を講じながら散歩、外気浴で五感に働き掛けています。洋服店、もくれんの花を見つけ散歩距離が延びました		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療支援をいままでの暮らしから継続して受けられるように、家族などと十分に話し合い対応しています。実際にさまざまな医療機関を利用して暮らしている方々がおられます。認知症専門医には、受診同行したりしております。	全員が入居前からのかかりつけ医を受診している。体調情報を記した医療連携シートを活用し、情報を共有している。家族から結果報告がある。薬が変わった時は、調剤薬局から情報を得て、職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のホーム看護師には、最新検査結果、排便状況、皮膚状態も相談した上で、医療専門知見を頂き、対応が出来ている。24時間相談連絡可能なので適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	気仙沼医療機関からの情報をケアマネ協会を通じ確認しています。入院の際には、相談員、看護師さんには、早めに挨拶、相談するようにしています。利用者様には、認知機能が低下しないように介入を速やかに行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居申し込みの段階で、必ず説明をさせて頂いています。その時の状況、家族関係が千差万別なので、かかりつけ医に方針もあるので早めに支援に取り組んでいます。	入居時に看取りはしないことを家族に説明し、「看取り介護に関する意見要望書」による書面で確認している。重度化の傾向にある方は、早い段階で家族や医師と相談し、特養や病院へ移ることを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	尻餅、転倒など事故報告で、対応が実践出来るように全職員に報告書で共有している。実際の居室での場面で、想像ではなく自ら再現して対応を身に付けています。消防署の打撲、誤嚥の応急手当は、定期的に訓練していますが今年中止		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	他県での水害被害の報告から災害対策の関心は高まっています。避難経路を2パターン作り全体の見直しをしています。町内の方と連携も出ています。職員は勤務年数が浅い人、他県出身が多いので今後も継続が必要です	夜間想定を含む避難訓練を、年2回実施している。非常用食料が3日分確保されており、コンロ等の備品があり、定期的に点検を行っている。職員の消火訓練を行うなど、実践的な取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のバックグラウンドを把握した上で、保育士で元気なやり取りが好きの方や、元教員の方は敬語で話しかけ尊重してますトイレ介助はお手伝いさせて頂くという姿勢で対応しています。入浴時、訪室の際のノックなどには、気をつけております。	居室や浴室へ入るときはノックして名前を呼び、入室している。入居者の生活スタイルを尊重し、意思決定を大事にしている。配慮に欠けた言葉使いは避け、入居者の行動を察しての対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室を訪問した際には、安心して自分の話が出ています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の流れを支援しているが、好みの飲み物や「お盆だねお彼岸だね」と話され職員はぼた餅、のっぺ汁、あざらを一緒に作るなど希望に沿うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍でも変わらず身だしなみか継続出来るように「エステの日」を設けマッサージ、パックなど好評でした。マニキュアなど希望の方に支援したり行事ではお化粧品を差し上げています。昼食の歯磨きも定着しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしやの芽取り、煮物の野菜カットなどお手伝いを頂いております。食事の彩り、盛り付けなども利用者さんに相談しながら進めております。	献立は、入居者の好みを聞き、看護師に栄養相談をして決めている。入居者の指導で、郷土食「あざら」を作ったり、2か月に1度の寿司の出前を楽しみにしている。入居者の歓迎会で、外食に行ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日10時15時にお好きな飲み物を提供しています。自宅から急須を持参して頂き一人では飲まない人には、自分で急須から注ぎ皆さんにお茶を出して頂く事で自然にお茶のみが出来るように配慮しています。季節の食材で調理しています。酸の物が、好評です。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを一日3回行う支援を続けています。嚥下体操も食事前に行い美味しく食事が出来るように支援しています。歯磨きに興味がない人には個別にお手伝いしながら舌苔も、観察しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で排泄出来るかたは、継続できるような声掛け工夫しています。介助が必要な方でも便の拭き上げのみ介助、排尿時は自分で拭き事など個別に対応、支援して可能な限り自立を促しております。	夜間のポータブル使用は3名いる。ふらつきのある方は、安全面を重視し、フットセンサーを使用したり、鈴を鳴らし職員にサインを送る。排泄チェック表を利用し、排便管理と便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の積み重ねを大切に、毎朝ヨーグルト、牛乳を飲んで頂いています。便秘薬に頼らず散歩、運動、腹部マッサージ、入浴など個別の趣向を考慮して対応しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	現在は入浴拒否の方がいません。喜んで入浴して頂けるように入浴剤を選んで頂いたり、本人から希望があった際には、応じるようにしています。5月にはしょうぶ湯、冬は柚子湯なども好評です。	午前や午後、曜日など、入居者の希望に沿った入浴を週2回行っている。着脱の一部介助や背中を洗う、浴槽の出入りの見守りを「急がせない」「焦らせない」を大切に、本人のペースで出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠傾向な時は、リラックス出来る音楽を流して支援しています。ホットミルク、麦茶なども飲んで頂いています。日中の活動、過度な昼休みにも気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には、3回確認が出来るようにしています。服薬効果が強い場合は、主治医に相談させて頂いたり、処方薬剤師さんに相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、取り組んでいます。裁縫が得意な方は、雑巾縫いを活動にしています。教育者経験者は、塗り絵をお願いすると繊細な色使いを見せてくれます。美容に興味がある方には、化粧、エステ、ネイルなど支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦で外出は、少なくなりましたが以前は、友人宅に家族の協力も頂き2、3度、ホームでお連れして出かけられた方もおります。馴染みの洋服店にも何度もお連れしていました。現在は、感染対策の上の散歩が多いです。	花見、紅葉など季節に応じた、ドライブを楽しんでいる。家族との歯科通院後、家の畑を見て来たり、親戚の家でお茶のみをして来ることある。日常的に、ホームのウッドデッキに出て、花や野菜の手入れをして、外気に触れられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の理解が出来る方には、自分で支払いが出来るように馴染みの商店で行っています。成澤さん、タコよしさんを利用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会出来ないので手紙で家族から毎週お手紙を頂ける方もいます。ホームからも年賀状、暑中見舞いを、手作りで直筆で可能な方は、送ってやり取りしています。携帯電話所持者は、夜に家族と連絡しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に手摺がなく靴の履きかえなど不安でしたが手すりを設置して自立できる方もおります。共同場所には昭和初期のカレンダー、ポスターを掲示しています。モンちゅち、キューピー人形、手作り日めくりカレンダーも好評ですアウトデッキから日差しを入れガーデニングも行っています。	リビングの一角に、入居者が腰掛けて休憩できる小上がりの和室がある。温湿度計で管理し、日に数回換気を行なっている。ドールケアで懐かしい人形を飾ったり、夕食後はイブニングケアでさざ波の曲を流し、ゆったりした空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりが共有スペースにあり畳みに座り自分の時間が作れています。入居者さんの席の配置には、カンファレンス、毎日の様子から工夫して座って頂いています。利用者さん同士で話が出来ています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所準備の説明から、馴染みの物、時計、身に着けるものなど持ち込んで頂いています。昭和初期のアルバムの切り抜き、好みの人形、動物ポスターなどで自分の部屋で寛いで頂いています。	使い慣れた整理タンス、冷蔵庫を持ち込み、入居前に手作りをした暖簾や家族の写真を飾っている。携帯電話で家族と話をしたり、位牌に水を供えたり、その人らしく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内を、大きな字で利用者さんの目線に合わせ表示しています。「何時でも相談ください」の案内も職員席に作り穩やかに安全に工夫しています。生活の流れのポスターもテーブルに準備して自立できる支援をしています		